

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析

我孫子市立根戸小学校

## <教科に関する調査結果より>

調査したすべての教科（国語・算数）において全国・県の平均の正答率を上回っている。また、各教科のすべての領域で全国・県平均を上回っており、数値的にも上昇傾向に転換し、良好な結果であった。

### 【国語】

全ての観点で全国平均を上回る結果となった。細かく観点別に見ていくと、「A 話すこと・聞くこと」の領域が全国平均よりもおよそ10ポイント高く、一番低い領域は「B 書くこと」であるが、全国平均とほぼ同数値となっている。

また、過去3年間の本校の経年変化においては、全体の正答率は今年度の結果が一番高くなっている。さらに各観点で比較しても「書くこと」を除き、いずれの観点でも今年度の結果が高くなっており、昨年度まで校内研修で国語に取り組んできた成果が見られたと考えられる。

今後は本校の課題でもある「B 書くこと」の向上のために、日頃の学習活動の中で自分の考えを文章や詩など様々な形で表現したり、読書活動を充実させ、良い文章に触れたりすることで改善を図りたい。

### 【算数】

すべての項目において全国平均よりも高い水準を維持しており、昨年までの緩やかな下降傾向から、上昇傾向へと転換している。また、領域別に見てもすべての領域で全国及び千葉県平均を上回っており、平成31年度以降最も良い結果であった。

さらに領域別の正答率を細かく見ていくと、「D データの活用」が一番高く、一番低い領域は「B 図形」の領域となっている。

正答数分布図を見ると全国平均よりも上位層に位置付けられる児童の割合が高くなっているが、全国の平均正答率を下回る層の中に一定数の児童がおり、この児童を引き上げていくことで、根戸小学校のより一層の学力向上につながる。

今年度から本校では、校内研究の教科を算数科にして学習に取り組んでいる。学力向上を図っていくためにも、学校での算数科の授業の流れの統一化や、自力解決のための手立ての充実化などに取り組み、今後も学力向上を目指したい。

## <児童に対する質問紙調査結果に見られる特徴と現状>

基本的に全国平均と同等値の結果となっているが、「先生が学習についてわかるまで教えてくれる」という点での評価が高くなっている。学習について、担任と児童との関係性が学力の向上につながっていると考えられる。

一方で、基本的な生活習慣やいじめ、モラルなどに関する項目については、全国平均とほぼ同数値ではあるが昨年度と比較すると下降傾向にある。

### 【保護者の方へ】

子どもたちの健全な育成については、毎日朝食を食べたり、睡眠時間を確保したりする規則正しい生活習慣を送ることが大切になってきます。また、ゲームの時間を決めたり、携帯電話やスマホを持たせているご家庭では、使い方の約束を決めるなど、ご家庭におかれましても今一度話題にし、お子さまの生活習慣を見直す機会にしていただけたらと思います。学校としても、通常の授業の課題だけでなく、宿題等で家庭で取り組む課題についても指導していきますので、今後ご家庭で声掛けをお願いします。

また、今年度から校内研究を新たに算数科へと変更し、これまでの国語科での研究の成果を継続しながら、より一層根戸小学校に在籍する児童全体の学力向上を図れるようにしていきたいと思えます。

今後、今回の調査結果分析をもとに今までの指導を振り返り授業改善に努めて参ります。各家庭におかれましても皆様のご理解ご協力をよろしくお願ひします。